

落穂ひろいの旅

2021-6-2 池田良穂

先週は、北海道クルーズ振興協議会の総会、そして赤井先生主催のスマートクルーズアカデミーでの講演と結構忙しく過ごしましたが、日本の旅客船の編集を進めるたびに出てくる船の追加取材必要件数が山のように積み上がるのが気がかりでした。編集のために最新の船舶明細書で船のデータを調べる作業していますが、就航年の入力をしてみると、写真の撮影日付より新しい船がでてきます。同じ船名ですが、実は代替されていて、写真は先代船のものだったというわけ。また、写真が未だないものもあり、落穂ひろいのように小まめに撮影を続けなければなりません。

さて、いつもよりは3週間も早く梅雨の季節に入り、撮影旅行も行きにくいのですが、先週金曜日の講演を終えた後で、天気予報を調べると4日ほど晴れの日が続くと予報。そこで、土曜日から松江、三田尻、下関、小倉、博多、神湊、平戸、長崎と回ることにして、車ででかけました。十分な下調べができなかったため、小倉や神湊では目的の船がちょうどドックに入った日と重なったりもしましたが、結構充実した撮影行ができました。下関では、建造中の名門大洋フェリーの「フェリーきょうと」を、長崎では、同じく建造中の東京九州フェリーの「それいゆ」と、同時就航に向けて待機中の「はまゆう」が並ぶ姿も見られました。帰りは、さすがに疲れてしまったので、新門司港から名門大洋フェリーの「フェリーきたきゅうしゅうII」に乗船。快適な船旅が楽しめました。



旅の最初に訪れたのは、松江の矢田の渡しです。インターネットで調べた船とは違う「7KNOT」という船が止まっていた。看板には、コロナのため9月まで運休との文字が。境港水道で日本海とつながる中海と、さらに奥の宍道湖(しんじこ)とを結ぶ大橋川の真ん中あたりを渡る渡船で1300年の歴史がありますが、橋がいくつもかかり利用客も激減しているそう。このまま廃止にならなければいいのですが。



山口県の三田尻港と、瀬戸内海に浮かぶ野島を結ぶ高速旅客船「レインボーあかね」の入港です。お目当ては、野島海運の新造の予備船「レインボーのしま」なのですが、野島側に係留されているとのことで撮影は断念しました。



下関市の吉見港では、沖合の蓋井島(ふたおいじま)を結ぶ市営船「蓋井丸」の入港をキャッチすることができました。



下関駅の裏の棧橋から、玄界灘に浮かぶ六連島(むつれじま)を結ぶ「六連丸」の出港風景です。狭い水道を通して、彦島大橋の下を通過し外海にでます。



下関では巖流島行きの船に乗って、三菱造船の下関造船所で艤装中の「フェリーきょうと」に初対面。5月13日に進水して、今年12月には大阪南港と新門司航路に就航します。たのしみですね。スクラバーが設置されたためか煙突が高い!!



小倉港は、新しくなった「こくら丸」の撮影のために寄ったのですが、生憎ドック中で、「りうぐう」という船が代船として運航されていました。この船とは初対面!! いったいこの船かとインターネットで検索すると、宮島口航路用に建造された船で、関門海峡を渡る渡船と同型とか。



宗像市の神湊(こうのみなと)へは、新造カーフェリー「フェリーおおしま」の撮影のために寄りましたが、その時刻に入港してきたのは高速旅客船「しおかぜ」。もしかすると地島(じのしま)航路へ就航しているのかと待つと、地島からも高速旅客船「ニューじのしま」が入港してきました。市役所に電話を入れるてみると、本日からドック入りとのことでした。



地島航路の市営船「ニューじのしま」の入港です。



福岡市の姪浜港によって、福岡市営船の撮影をしました。お目当ての「レインボーのこ」はドック中で、「フラワーのこ」だけが運航されていました。沖合の能古島を結びます。



姪浜港には、小呂島(おろのしま)航路の双胴船「ゆうなみ」が停泊していました。月水金は1日1往復、他曜日は2往復しています。「ニューおろしま」の代船。



姪浜港には安田産業汽船の高速船「マリンライナー2」も係船されていました。



伊万里湾に浮かぶ鷹島は、東側に本土側と結ぶ橋が完成して、多くの航路が廃止になりましたが、西側には黒島や青島があり、それらの島も結ぶ航路が北松浦半島の松浦及び御厨(みくりや)とを結んでいます。写真は鷹島汽船の高速旅客船「たかしま」が松浦港に入港する姿です。



御厨港に入港する鷹島汽船のカーフェリー「フェリーたかしま2」です。



平戸島は橋で結ばれて本土側の田平港と平戸港を結ぶフェリーは姿を消しましたが、平戸港からは沖合の度島(たくしま)と大島とを結ぶ2つの航路にカーフェリーが運航されています。度島には民間会社のフェリーが、大島には市営フェリーが運航されています。



度島航路の「第三フェリー度島」の平戸港への入港シーン。民間の竹山運輸の運航です。



平戸市営フェリー「フェリー大島」の入港シーンです。同じ船名の先代から代替されているのを日本の旅客船Ⅲの編集過程で知りました。



佐世保港に到着すると、上五島からの九州商船のカーフェリー「いのり」が入港してきました。



翌朝、佐世保港には九州商船の「フェリーなみじ」が停泊していました。そろそろ代替の時期でしょうか。



朝の6時20分、最初の定期船は瀬川汽船の「さいかい」でした。



婆羅門(ばらもん)観光の高速船「マリンサポートⅢ」が続いて入港してきました。



佐世保から西海橋を渡って西彼杵(そのぎ)半島の西岸を南下して長崎に向かいました。途中、西海市の瀬戸港では、沖合の松島を結ぶ旅客船を見ることができましたが、いつもの顔ぶれで変化はありませんでした。西海市営船「New 松島」の出港シーンです。



松島から入した「シャトル 5号」です。運航は、江崎海陸運送です。



西海沿岸商船のカーフェリーで、瀬戸港と松島及び池島を結んでいます。



西彼杵半島の沖に浮かぶ池島は、長崎市の軍艦島と同じく炭鉱の島ですが 2001 年に閉山しました。今は、トロッコ列車で炭鉱に入るツアー等が行われています。神ノ浦港からは長崎市営の渡船があるとされていましたが、数回訪問したものの会うことはできませんでした。市営とはいえ、民間委託事業で「神栄丸」という遊漁船が 1 日 4 往復(片道 12 分程度)しています。入港する同船が見られて感激しました!!港の掲示板の連絡先には同船の船長の携帯電話番号が書かれていました。



長崎港に到着すると、ちょうど高速旅客船「シープリンス」が入港してきました。



続いて「ビクアース」が入港してきました。三菱重工の立神工場には自衛艦が並んでいました。



三菱の岸壁には東京九州フェリーの高速カーフェリー「それいゆ」(左)と「はまなす」が並んでいました。7 月に 2 隻が揃って就航とのことでした。



「はまゆう」の顔写真です。水面付近の船首がたいへん細いのが分かりますね。



この日は「第十八わかと丸」が就航していました。運賃は 100 円。操船するのは若い女性船長でした。



新門司港から名門大洋フェリーの「フェリーきたきゅうしゅうⅡ」に乗船しました。



「フェリーきたきゅうしゅうⅡ」に乗船のために新門司に向う途中、若戸渡船場に寄りました。日本の RORO 型フェリーの発祥の地でもあります。